

発言No. 11

受付No. 6

令和6年2月14日  
8時50分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 19 番

氏名 田畑 敬二

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

能登半島地震から、1ヶ月以上が経過しています。M7.6、最大震度7とされています。死者238人、行方不明者19人、住宅の損壊約40,200戸、交通網の損壊、停電、水道管の損壊による断水等々があります。(2月1日現在)

浜田地震から約150年になりますが、能登半島地震をよそ事と思わず、教訓として、市の防災計画の見直しが必要ではないかと感じます。浜田近辺で同様な地震が発生した場合の市の対応策を伺います。

#### 1. 地震発生時の対応策について

- ① 災害情報(防災情報を含む)の市民への伝達方法はどの様な手法か問う。
- ② 基幹管路の耐震化についての実態を伺う。
- ③ 液状化現象等により道路網が遮断されたときの対応策を伺う。
- ④ 一時避難所の設置基準についての基本的な考えを伺う。
- ⑤ 一時避難所の停電時の対応策について伺う。

発言No. 12

受付No. 2

令和6年2月8日

9時58分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 10番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者  市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長  
(○をつける)  農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 農業の振興について

##### (1) 農業特定技能2号について

- ① 人手不足で即戦力となる外国人労働者を受け入れる在留資格が、昨年8月末より農業分野で2号対象が追加になり、2号対象になると在留期間に上限がなく、長期の人材雇用に繋がる可能性がある。市内における農業分野での外国人労働者の従事者数と現在の状況を伺う。

##### (2) 農業版BCPについて

- ① 気候変動の影響で自然災害が多発する中、「農業版BCP（事業継続計画書）」が重要視されている。災害時の緊急対応をあらかじめ決めておくもので、損害を最低限に抑え、事業の継続や早期再開につなげるのが目的だが、市の考えを伺う。

##### (3) 仮想現実（VR）について

- ① 農業分野のさまざまな課題の解決に仮想現実（VR）技術が役立っている。栽培技術や農作業安全の研修などができ、VRで初心者の方も篤農家の技を習得できれば、産地のレベルアップに繋がると感じるが、普及に向けた市の考えを伺う。

##### (4) 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターについて

- ① 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターは、JAしまねが運営から撤退する方針を決定され、県内各地に影響する大きな問題であり、定例会議で幾度となく質問をしてきたが現在の状況を伺う。



## 一般質問発言通告書

議席番号 15 番 氏名 岡本 正友

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
(口をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1・災害の教訓からの備えについて (SDGs11)

これまでに多くの災害を経験し、その教訓をもとに法改正のほか、ハード面とソフト面の両面について対応と対策を推進されている。改めて内陸直下型の能登半島地震の被災を検証して「自助」「共助」「公助」の視点で、本市における地域の課題の改善をはかり、そして防災力を高める「誰一人として取り残さない活動」と「自分たちの町は自分たちで守る活動」の「つなぐ」しくみづくりを質す。

##### (1)「自助」の自分の命は自分で守る備えについて

- ① 能登半島地震における人的被害・住家被害の分析から今後の対策を問う。
- ② 浜田市における自主防災組織率と課題を問う。
- ③ 避難場所・一時避難所・指定避難所の設定と周知及び課題について問う。

##### (2)「共助」の地域・職場で助け合える仕組みについて

- ① 自ら避難する事ができない災害時要配慮者と避難の確保を図る支援を要する避難行動要支援者の名簿作成の状況と課題を問う。
- ② 2016年に「避難所運営ガイドライン」を、そして2021年に「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を公表しているが取り組み状況を問う。

##### (3)「公助」の官地産学のお互いに顔の見える関係づくりについて

- ① 企業及び施設における防災に係る取り組み支援の状況を問う。
- ② 協働のまちづくり推進委員会の編成において防災をテーマに組織化をされた町内があると同う。まちづくりコーディネーターと防災士の関わりを問う。

#### 2・教訓の伝承について (SDGs4)

地域における土砂災害や洪水も含めた災害・震災を受けた経験などを教訓として伝承する取り組みを質す。

- ① 自然災害伝承碑等の設置の実態を問う。
- ② 子ども達に防災をどう伝えるかを問う。

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 5 番

氏名 沖田真治

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1. 浜田市地域公共交通計画（案）について

(1) 地域の特性に対応し、高齢者等の公共交通利用者のニーズに合った交通手段の確保について

①令和4年度時点であいのりタクシー事業を利用している団体は、13団体の全てが旧那賀郡となっ

ている。制度を運用する中での課題や実績を踏まえ、まだ利用がない旧浜田市内への普及はどのように

考えているのか伺う。

②事業開始から好評な敬老福祉乗車券事業について、利用しやすく増刷を求める利用者の意見も多くあ

る状況を踏まえると、乗車券事業への予算比率を上げることがニーズに合った交通手段の確保につな

がるのではないかと思うが市の考えを伺う。

(2) 効率的で持続可能な交通体系の構築について

①民間路線バスの減便が相次ぎ、今後も減便、廃線が予想される。生活路線バスにおいても利用者は減

少傾向にある中、市としてバス路線存続をどのように考えているのか伺う。

②効率的で持続性の観点から、乗合タクシーやあいのりタクシー事業のような利用者のニーズに合った

他の交通手段に力を入れることで地域交通の充実を図るのか、方針について伺う。

③国土交通省においては、関係府省庁とも連携しつつ MaaS（マース Mobility as a Service）の全国への急速な普及に取り組んでおり、導入している自治体もあるが、本市はどのように考えているのか伺う。

(3) 利用しやすい交通環境の整備について

①今回示された地域公共交通計画では、若者や学生が活動や生活するための移動手段確保という観点が見受けられない。1月17日に県立大学生と意見交換を行った際、大学へのバス便の時間が合わない、少ないなどの意見があった。都会地と比べ公共交通が十分ではない本市において、学生が活動や生活するうえで移動手段の確保は課題と思っている。県立大学生や市内の学生が活発に活動することで町は活性化されるとも考える。令和6年度の施政方針でも若者対策が示されており、若者の移動手段の充実も対策と言えらると思うが市の考えを伺う。

発言No.

15

受付No. 11

令和 6年 2月 15日

9時 40分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番

氏名 西田清久

答弁を求める者

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 三桜酒造跡地の利活用について

#### (1) 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館併設の考え方について

- ① 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館を併設で検討された理由について問う。

#### (2) ふるさと応援基金の活用の考え方について

- ① ふるさと応援基金の残高が約25億円あると言われるが、事業費にどれ位取り崩そうとイメージされているのか問う。

#### (3) バックキャスティングの考え方について

- ① バックキャスティングは、浜田市の「あるべき未来」を描き、そこから逆算して現在行うべき事業や活動の優先順位を決めることであって、正反対の手法にフォアキャスティングがある。これは現在を始点として現状からの積み上げの結果として創造されるものであり、未来像が望ましいものであるという保証はない。

市長の言われる「今なら整備できる」という考え方は、フォアキャスティングだと思うが、望ましい未来像についてどのように描いておられるのか問う。

#### (4) 三桜酒造酒蔵の活用について

- ① 昨年3月定例会議一般質問では、酒蔵は老朽化が進んでいることや残せば多額の費用を要するという理由から更地で取得することが決定された。しかしながら200年以上にわたる造り酒屋の歴史と文化を価値の検証も行われずに取り壊されることが浜田の歴史を創ってきた多くの先人に対して申し訳ない思いが湧いている。

検討委員会でも「幅広い世代が憩い、くつろげる場」を望む声が多く、にぎわいや豊かさを生む空間には酒蔵のリノベーション活用が最も望ましいと考えるが、改めて市長の所見を問う。